２０２５年１１月１日発行

海匝・山武 男女共同参画だより

第13号

～ 地 域 で ひ ろ が る 笑 顔 の 輪 ～

「男女共同参画」とは、地域の一人一人がお互いを尊重し合い、笑顔で過ごせる社会を目指すもので、ごく身近にあるものです。「男女共同参画だより」では、千葉県男女共同参画地域推進員がそれぞれの地域で男女共同参画に携わるお仕事・活動をしている方々を取材し、紹介しています。

空への「憧れ」が「現実」に　世界に羽ばたく輝くCA！　　山武市（諏訪 富美江）

伊藤 貴子さん

今回は、日本航空株式会社で客室乗務員（CA）としてご活躍されている山武市出身の伊藤貴子さんに取材をしました。

子どもの頃から、お母様の実家に行くときに飛行機を利用しており、小学校４年生の時に、「将来は CA になりたい」と夢を抱くようになったそうです。現在は、様々なお客さまと接し、「お客さまから感謝された時にやりがいを感じます」と話してくださいました。

また、６歳と４歳の二人のお子さんを育てながら、会社の充実した制度をフルに活用し、旦那様や近くに住むお義母様のサポートも受けて、家庭と仕事を両立するなど、ご家族の応援に感謝しているとのことでした。

休日はランニングをしたり、資格やキャリアアップのための勉強をしたりしているとのこと。ワインソムリエの資格取得と、いつかホノルルマラソンへ参加したいと仰っていました。お仕事の面では、エコノミークラスからビジネスクラスの責任者へとキャリアアップを目指していきたいそうです。

これから CA を志望する皆さんへのメッセージとして、「毎回のフライトで見聞を広めることができ、世界の景色や食文化も楽しめる、とても素敵なお仕事です！」と、親しみやすい笑顔と柔らかな口調で語ってくださいました。強いプロ意識を併せ持つ貴子さんの、ますますのご活躍を期待しています。

みつばちに魅せられて女性養蜂家に・・・　　大網白里市（今井 静子・澤畑 道子）

「みつばちがかわいくて…」とまなじりを下げる養蜂家の丸山千晴さん。「一生懸命働くみつばちを見ては感動し、蜂蜜が採れた時の達成感を味わっては涙が出ました。」という丸山さんは、みつばちが大好きすぎて、企業の内定を辞退し、大学卒業後養蜂家の道に進むことに。現在、非加熱、無添加の蜂蜜が人気となり、全国から注文が殺到するまでになりました。当初、みつばちの管理の失敗があったり、経営に対する葛藤を経験したりしましたが、師匠や家族に助けられながら、しなやかな心で乗り越え、試行錯誤しながら今に至っています。

丸山 千晴さん

「蜂蜜は、花の種類や採取する場所によって味に違いが出ます。地元大網白里や千葉が大好きなので、故郷の味を美味しい蜂蜜で表現したいと思っています。」と熱い思いを語ってくれました。

養蜂家という仕事は、みつばちの力を借り、自然の恵みを人々に届けるやりがいのある仕事ですが、年々その数が減っています。「これからは、女性でも収益性が上がるような改革をし、重さがネックの巣箱を軽くしたり、燻煙機を使わないで蜂蜜をとる方法を確立したりして、女性でも養蜂に携わりやすい工夫をしていきたいです。」と将来の展望を語ってくれました。

これからも、季節の花々の中で大好きなみつばちと共に、人や環境に優しい蜂蜜づくりを目指してください。応援しています。

「九十九里産」のワインで地域を元気に！　九十九里町（若山 千加子）

九十九里町でワイナリーを運営している、鈴木麻美さんにお話を伺いました。

元々、都内でカウンセラーの仕事をされていたそうですが、2011 年の震災をきっかけに、地元である九十九里町に帰ることを考え始めたそう。そんな時、会社の元上司が山梨でワイナリーを始めるという話があり、九十九里町で仕事を始める準備として、起業を学ばせてもらうということで手伝っていたところ、ぶどう栽培やワインづくりが楽しいということ、またワイナリーには「人の集まる場」としての力があることを感じ、九十九里町にもワイナリーを作ろうと決めたそうです。

鈴木 麻美さん

そして、2015 年から九十九里町で試験的にぶどう栽培に着手。ぶどうが育つということを確認できたため、年々栽培数を増やしていき、2020 年には委託醸造でワインを製造、「魚介のお料理や海のシーンに似合うワイン」をコンセプトに販売を開始しました。2023 年、自らが代表となり株式会社オフィス・ステージを設立、2024 年にはワイナリー・ワインバーをオープンし、100%九十九里産のぶどうを使い、町内で醸造した「九十九里産」ワインの製造・販売も開始しました。

明るい笑顔でだれもが応援したくなる人柄の麻美さん、新たな名産「九十九里産」ワインで九十九里町を活性化してくれること間違いなしです！

「港町バル」で、にぎわいの風を運ぶママさん達　銚子市（岩瀬 賢氏・山本 政美・金尾 記子）

「ウンナラカシテイクドー」銚子駅前に響くこの言葉は、単なるスローガンではありません。後継者不在などで元気がなくなっていく現状を見るに忍びなく、元気を取り戻したいという願いが、生粋の銚子っ子には強くあります。

中華料理店の真弓会長、カフェ店経営の武井副会長、海産物経営の藤邨（ふじむら）副会長の３人は、子育て、仕事、家事に日々奮闘する中、いろいろな人に呼びかけて、共感を得て老若男女問わず、また職業問わず 15 名の仲間を集め、「銚子駅前パワーアップ倶楽部」を立ち上げました。

「銚子駅前パワーアップ倶楽部」の皆さん

そして、今年４月地元飲食店の味が楽しめる「港町バル」を銚子シンボルロードで開催。マグロの解体ショーや浜焼きコーナーが並び「銚子わんわんフェス」との同時開催で、町はまるでお祭りのような盛り上がりがあったそうです。（銚子市広報４月号引用）

しかし、「港町バル」はアイディアがあっても、人手不足やお金のことで色々と障害があり大変な苦労をしました。それでも終わってからみんなもお客さんも喜んでくれて、本当にやってよかったと実感したそうです。

彼女たちが何故ここまでやってこられたのか、その１つの理由は、彼女たちの世代の特徴によるものと思います。バブル崩壊後に生き抜いてきた堅実な世代で、情報収集に社会とのつながりを持ち続けたいという希望があるそうです。

とにかく誰も何も経験がないのに、成し遂げた事は奇跡的であると思います。「次回もやるので、乞うご期待」と皆さん、楽しそうに話してくれました。銚子市にとっても、市民にとっても、実に頼もしい人たちであると、しみじみ感じました。

千葉県男女共同参画地域推進員とは

男女共同参画社会づくりを進めていくためには、県民一人ひとりの意識を高めることが必要です。

そのため、千葉県では「千葉県男女共同参画地域推進員」を知事が委嘱し、地域推進員は県内６つの地域に分かれて活動しています。地域推進員は、地域と市町村・県とのパイプ役となり、各地域の特性を踏まえて、講座・講演会の開催や広報誌などの事業を通じ、地域での男女共同参画の意識の普及・啓発をしています。

匠女子の現場 / 東商ゴム工業株式会社　　横芝光町（伊藤 清美・石川 真由美）

ローラー製品を中心にゴム・樹脂素材の製造を手掛ける東商ゴム工業株式会社は、創業から約 60 年、顧客の細かなニーズに応じたオーダーメイド対応を強みとし、長年にわたり高い信頼を築いてきました。

今回取材させていただいたお二人は、専門知識をいかした機械操作と次世代の指導を担っています。長年続けてこられた背景には、社内環境の良さがあります。製造現場の男女比率が男性３割、女性７割という点が、両性の意見を反映させた働きやすい職場環境を作っています。

現在、末永社長を中心に新製品の開発に取り組んでいます。その一つが「ゴム製防災笛」です。ゴムの性質をいかし、災害時の状況でも壊れにくい強度を持っています。こうした開発姿勢から、ゴムという素材に秘められた無限の可能性を追求しようという情熱が伝わってきます。

製造現場を実際に見たことで、ものづくりへの理解がより深まりました。工場は見学可能です。

守部さん　　社長　　林さん

農業の担い手「宿り木」として　　匝瑳市（男女共同参画担当）

安藤 真紀子さん

今年の４月から匝瑳市の地域おこし協力隊になった安藤真紀子さんを紹介します。

アウトドアや自然が好きで、いつか「農業」に携わってみたいと思い、地域おこし協力隊に応募。農業未経験でしたが、春から農業大学校で農業の基礎を学び、現在は、地域農業の振興のため、地域の農業者のもとで実習を積むことで、自分にできる農業を模索しています。自然相手の農業は学ぶことも多く、マニュアルにない地域の農業者の工夫を知ることで、農業のおもしろさがより深まるそうです。

また、農業の研修や実習に参加する中で、農業は「チーム」で助け合うことが大切なお仕事だと気づいたといいます。特に、女性は体力面で大変なことも多いですが、上手な力の使い方を話し合ったり、一緒に作業を行ったりすることに有難さを感じ、声かけし合う関係性ができあがっていくそうです。

今後は、「農家」として独り立ちし、将来的に、都市部の農業に関心がある人たちと匝瑳市の農業を繋ぎ、サポートしていく「宿り木」になることが目標です。

大貴先生だ～いすき　　芝山町（鈴木 京子）

「大貴先生、遊ぼうよ～」

大貴先生の周りには、いつもたくさんの子どもたちが集まっていました。

子どもの頃から憧れた保育士になった伊藤大貴さん、そのきっかけは、自身が保育園に通っていた時の先生の印象がとても強く、それから小・中・高とずっと忘れられない存在だったからです。子どもの好きな事をやらせてくれて、温かく見守ってくれたので、「あの先生のような先生になりたい」と保育士を目指したそうです。

男性保育士は、保育現場において需要が高まっていますが、まだ全体の１割未満です。体力面や防犯面、男児のトイレサポート、父親からの相談対応等、様々な場面で活躍の場が広まっています。保育士＝女性の職業という社会的イメージがありますが、伊藤さんは、子どもの事を最優先に考え、子どもの笑顔をやりがいに頑張っています。

“子どもたち、いっぱいあそぼうね。”　頑張れ大貴先生、応援しています。

伊藤 大貴さん

パパもママも奮闘中！　　旭市（伊藤 浩子・藤野 祐子）

家庭教育学級 役員の皆さん

これまで、ママ中心で活動してきた小学校の家庭教育学級。今年度、干潟小学校では、６名の役員のうち４名がパパ。積極的な立候補で決まったそうです！

理由は「上の子がお世話になったから」「ママは下の子の世話があるので」「自分が子どもの時は、父親参加がほとんど無かったから…」などなど。さらには、ご夫婦で引き受けてくれたパパママも。どの方からもたくさんの子どもたちと関わりたいという思いが伝わってきました。

ワークライフバランスを保つために、出勤時間を遅らせて子どもの送迎をしたり、子どもの通院にも対応できるようにしたり工夫しているというパパも。立ち会い出産をきっかけに「妻の負担を減らしたい」という強い思いが芽生え、赤ちゃんのときから協力してお世話しているという声もありました。「共育（ともいく）」という言葉を最近目にしましたが、その言葉通りの皆さん。常日頃、たくさん話したり相談したりしているのではないでしょうか。「やれる方が　やれる時に　やれる事をやる」と力強く語っていた姿が印象的でした。これは私たちも同じ思いで、ここからさらに広げていきたいと考えます。

今後の活動として軽スポーツ大会を予定しているそうで、多くのパパママの参加が見込まれ盛り上がることでしょう。地域に笑顔が広がります。

「東金市民へ食生活をアドバイス」食改さん 清宮武男公平支部長　　東金市（相京 眞澄）

「食生活改善会」の皆さん

東金市の食生活を通じて健康づくりを推進する「食生活改善会」（通称・食改さん）の会員 100 余人のうち、男性会員は 10 人程。大勢の女性の中、男性会員として活動されている、清宮さんに取材をしました。

学生時代の蕎麦店でのアルバイトを通じ食事作りに興味を持たれたそうで、公務員を退職後、男性料理教室の「金四朗の会」で料理の腕を磨きました。「妻が留守の際に食事を作りますが、調理器具の置き場所がわからず手間取ることもある。」とのことです。

食改には４年前、市主催の健康教室を受講後に加入しました。活動の一環で、太巻き寿司作りを撮影、制作した DVD を図書館に多数寄贈しているので、誰でも閲覧し、太巻き寿司作りの参考とすることができます。

「金四朗の会」では新聞作りに携わり、食生活の重要性を広める広報活動にも力を入れています。

市民の皆さんへのメッセージを伺うと、「人生 100 年　健康は自らつくる食事から」と即答でした。

男女共同参画だよりへの感想をお寄せください。

『海匝・山武 男女共同参画だより』をお手にとっていただき、ありがとうございました。
右の２次元コード「ちば電子申請サービス」にて、ご感想をいただければ幸いです。

＜発　行＞
千葉県男女共同参画地域推進員（海匝・山武地域）
＜事務局＞
千葉県男女共同参画センター
〒260-0001　千葉市中央区都町 2-1-12
TEL:043-420-8411　FAX:043-420-8581